



2024
vol.6

赤十字しが



輪島市で活動する救護班

令和6年能登半島地震災害

令和6年1月1日16時10分に発生した能登地方を震源とする最大震度7の地震は、石川県を中心に甚大な被害をもたらしました。

多くの人々が日常を奪われ避難生活を強いられる中、日本赤十字社は発災直後から救護班の派遣や救援物資の配布など、被災地の支援に動きました。

Contents

しがの赤十字活動レポート～令和5年度滋賀県支部この1年～

令和5年度日本赤十字社滋賀県支部の決算のご報告

令和6年能登半島地震災害にかかる日本赤十字社の対応

赤十字防災セミナーのご案内～もし自分たちの町で災害が発生したら～



日赤滋賀県支部
WEBサイト



Instagram

しがの赤十字活動レポート

5月 「赤」 十字運動月間

～大津市内で横断幕の掲出～

日本赤十字社の前身「博愛社」が創設された日(5月1日)や、赤十字の創始者アンリー・デュナンの誕生日(5月8日)にちなみ、日本赤十字社は「赤十字運動月間」である5月に、赤十字の理念や活動への理解と協力を呼びかけています。

4月1日から5月31日まで、大津市の歩道橋に日本赤十字社のスローガン「人間を救うのは、人間だ。」と書かれた横断幕を掲げ、赤十字活動への理解促進に努めました。



6月 「地」 域を超えたリーダー同士の交流の場

～「ハートラちゃんカフェ」を開催～

地域赤十字奉仕団は、団員の減少や役員のなり手不足など、多くの課題を抱えています。滋賀県支部では、各団の委員長、副委員長同士の交流の場を通して、組織強化や団活動の活性化を目指すことを目的に「ハートラちゃんカフェ」を開催しました。

各団の様々な事例や情報の共有により、課題解決につながるヒントを互いに学びました。カフェスタイルで気楽に話し合いができ、研修会とは異なるリラックスした雰囲気、実りある時間となりました。



7月 「先」 生、からだ浮いたよ！」

～着衣泳講習会を開催～

夏休み前の7月、県内の小学校ではプールの授業で着衣泳の講習会が開かれました。

服や靴を身につけたまま、海や川、用水路などに落ちる事故が、毎年多くおこっています。

講習会で児童たちは、赤十字水上安全法指導員から、「一番大切なことは、慌てず落ち着いて『浮くこと』だよ」と教わると、服を着て、靴をはいたままプールに入り、からだを浮かすことにチャレンジしていました。



8月 「参」 加者みんながリーダーに

～リーダーシップ・トレーニングセンター開催～

青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンターは、小・中・高校生が集団活動において、フィールドワークやグループワークに取り組み、リーダーシップの取り方を学ぶことを目的としています。トレーニングセンターでは、特定の参加者だけがリーダーになるのではなく、時には協力者にもなり、全ての人がリーダーシップの取り方を学ぶことを目指しています。



9月 経 済団体と連携し、赤十字活動をPR！

～しがわーくフェスタ2023に赤十字体験ブースを出展～

9月18日(月)、YMITアリーナ(草津市)で開催された滋賀県中小企業団体中央会、同青年中央会主催のイベント「しがわーくフェスタ2023」に出展しました。AEDや無線通信、防災グッズ作りなどを通じて、多くの親子連れの皆さまに赤十字が日頃行っている活動を体験していただきました。

AEDを体験した親御さんからは、「なかなかAEDに触れる機会がない中、子どもと一緒にAEDの使い方を実際に触れて学ぶ良い機会になりました。」との感想を寄せられました。



10月 災 害の危険を理解し「備える」を学ぶ

～近江八幡市立北里小学校で防災学習を実施～

近江八幡市立北里小学校において、子どもたちの自然災害への理解と、自分の身を守り考えて行動できるようになることを目的とした「子ども防災塾」を実施しました。

防災についての講義をはじめ、炊き出し訓練や防災グッズ・エアテントの紹介、心肺蘇生法など実技を交えた内容で、子どもたちに楽しみながら学んでいただける機会となりました。



11月 も っと、赤十字活動を身近に感じてほしい。

～「赤十字体験バス」を開催～

11月6日と13日、自治会、町内会の役員をはじめ、地域コミュニティリーダーの皆さまを対象に、日頃の赤十字活動をもっと身近に感じてもらうと、「赤十字体験バス」を開催しました。この催しは、赤十字活動の説明だけでなく、講習体験や災害時の非常食作りなどを通じ赤十字への理解を深めてもらう体験バスツアーです。

6日、栗東市在住の参加者からは「今までよく分からず募金に協力していたが、赤十字の理念や活動を知るよい機会となった。」との感想が寄せられました。



1月 赤 十字が一丸となり被災地に希望を届ける

～能登半島地震災害へ医療救護班等を派遣～

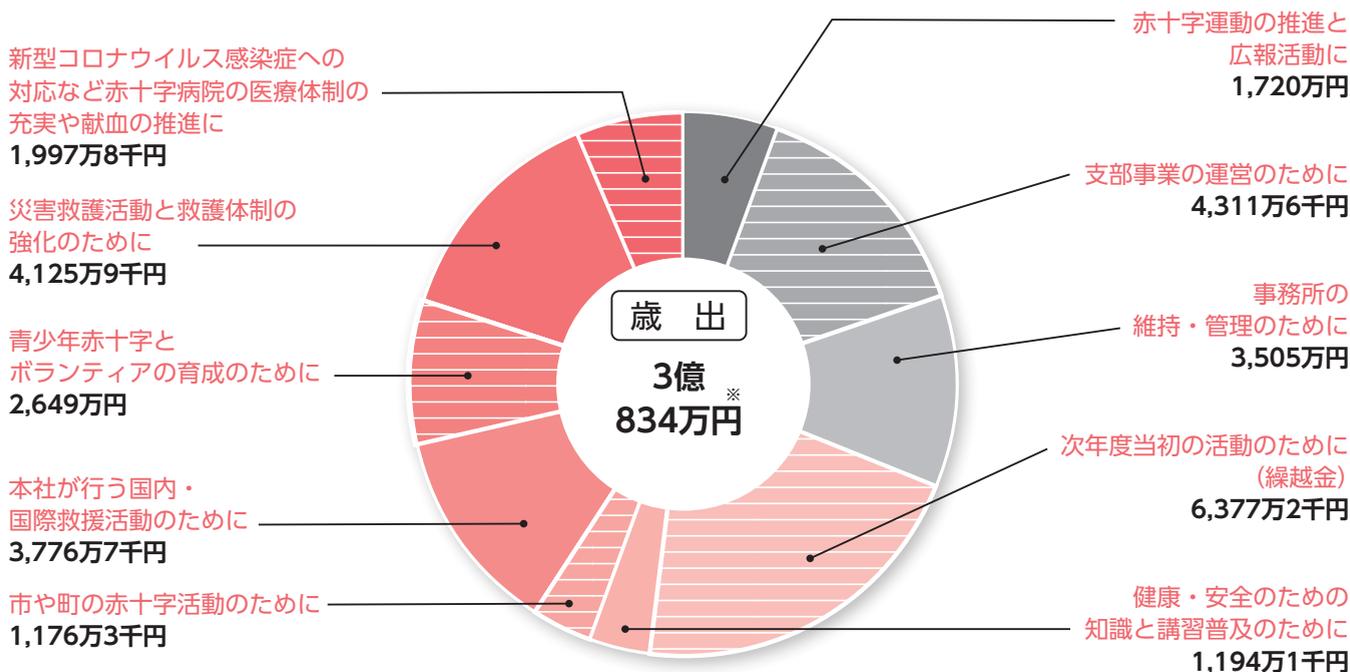
滋賀県支部は、発災の翌日には現地に救護班を派遣するとともに、その後も継続的に県内3つの病院から救護班や災害医療コーディネイトチーム、こころのケアチームなどを派遣し、被災者の医療救護や避難所でのこころのケアのほか、避難所における衛生管理など、被災者に寄り添った支援活動を行いました。



歳入

活動資金収入 …………… 2億5108万1千円
その他の収入 …………… 5,725万9千円

歳入合計 …………… 3億834万円



※ 千円未満を切り捨てているため、円グラフの合計金額と各項目の合計金額は一致しません

活動資金ご協力法人・団体のご紹介

日本赤十字社滋賀県支部の活動は、皆さまのご支援に支えられています。
活動資金のご協力、誠にありがとうございます。

- 一般財団法人滋賀県民間福祉振興財団
- 株式会社セラマ
- 有限会社三王都市開発
- ルミフィールドジャパン株式会社
- 中央環境サービス株式会社
- 株式会社一色製作所
- 株式会社ビブレ
- 株式会社西寄組
- 株式会社ヤサカ
- 株式会社イチダ
- 株式会社湖東総合システム
- 株式会社内田工業
- 有限会社岡田工業
- 株式会社大鳥居製作所
- 熊谷電工株式会社
- 株式会社高山
- 株式会社東洋石創
- 有限会社豊和建設
- 日星自動車株式会社
- 株式会社メディカルウェストシステム
- 株式会社久木野工務店
- 明治安田生命保険相互会社
- 大幸生コン株式会社
- 有限会社彦根サッシセンター
- 株式会社リーフ
- 株式会社近畿理研
- 近畿化学工業株式会社
- 医療法人藤樹会滋賀里病院
- 花文造園土木株式会社
- 有限会社天平フーズ
- 株式会社斉戸電気商会
- 有限会社日東電設
- 堅田電機株式会社
- アクア株式会社
- 近江ユニキャリア販売株式会社
- 株式会社清水屋呉服店
- 有限会社レークサイドガード
- 株式会社滋賀重量
- 株式会社近江潜建
- 三須税理士法人
- 株式会社佐藤医科器械製作所
- 厨房機器センター エコプラン
- 滋賀県中小企業青年中央会
- 医療法人むらお矯正歯科クリニック
- 甲賀システム株式会社
- 株式会社クリスタル光学
- 甲賀ロータリークラブ
- 株式会社明宝

※令和5年度中に5万円以上の活動資金をお寄せいただき、掲載をご了承いただいた法人・団体のみ掲載しております。(敬称略・順不同)

上記以外に45社・団体の皆さまからもご支援をいただきました。

令和6年能登半島地震災害にかかる 日本赤十字社の対応

職員派遣状況(全国) 令和6年5月7日現在

救護班 (DMAT含む)	延べ 342 班を派遣
日赤災害医療 コーディネートチーム	延べ 119 チームを派遣
こころのケア班 (調整班除く)	延べ 44 班を派遣
支部支援要員	68 人を派遣



日本赤十字社滋賀県支部救護班 主な活動の様子



地震で傷んだ道を進む救護車両



日赤石川県支部でミーティングを行う救護班



避難所で巡回診療を行う救護班(志賀町)



医療ニーズの調査に向かう救護班(輪島市)

活動にあたった救護員から

私は、輪島市内の避難所で活動しました。

避難所では多くの被災者の方から「遠くからきてくれてありがとう。」とお声をかけていただき、ご自身が大変な状況の中での心遣いが、私の活動の励みになりました。

私たちがこのように被災地で活動できるのは、皆さまの日頃からのあたたかいご支援のおかげです。心から感謝しています。



滋賀県支部救護班 佐藤 梓
(大津赤十字病院 看護師)



赤十字 防災セミナーのご案内

～もし自分たちの町で災害が発生したら～

滋賀県支部では、大規模災害から自分たちの「いのち」を守る講習を実施しています。
災害が発生した時の被害や救助活動、避難生活などを具体的に想像しながら、
命を守る様々な方法をご案内します。
お住まいの自治会・町内会など、ご希望の場所へ赤十字の講師を派遣します。



プログラムの一例

No	プログラム名	所要時間
1	赤十字について・災害への備え	60分～
2	地域防災マップづくり (DIG)	2時間30分～
3	炊き出し	1時間30分～
4	身近なものを利用した応急手当・搬送方法	1時間30分～
5	災害時の高齢者生活支援講習	1時間30分～
6	災害時のこころのケア	1時間30分～
7	災害時の乳幼児支援講習	1時間30分～



プログラムの詳細およびその他の講習会については、
日本赤十字社滋賀県支部のホームページをご覧ください。
か当支部までお問い合わせください。



講習会については
こちら